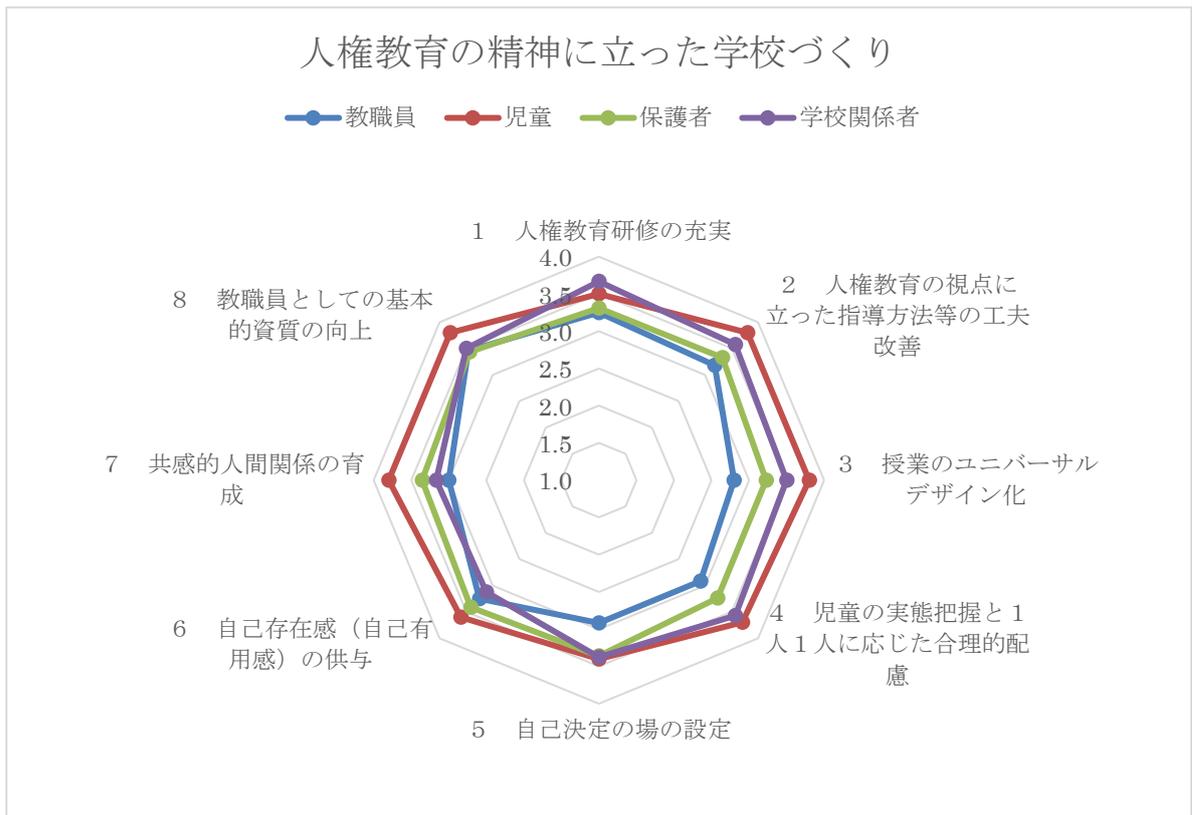


1 学校関係者 11名

2 学校関係者評価

学校教育目標「主体性・協働性・創造性を身につけた佐伊津っ子の育成」達成のためにこの1年間取り組んできたことを、「人権教育の精神に立った学校づくり」「さわやか（豊かな心の育成）」「いっしょけんめい（確かな学力の定着）」「つよさ（体力の向上）」に分類した32の評価項目において児童、保護者、教職員に4段階（4：よくできた、3：できた、2：あまりできなかった1：できなかった）で評価してもらった。さらに、学校関係者の評価と教職員、保護者、児童の評価と重ね、考察を行った。

(1) 人権教育の精神に立った学校づくり

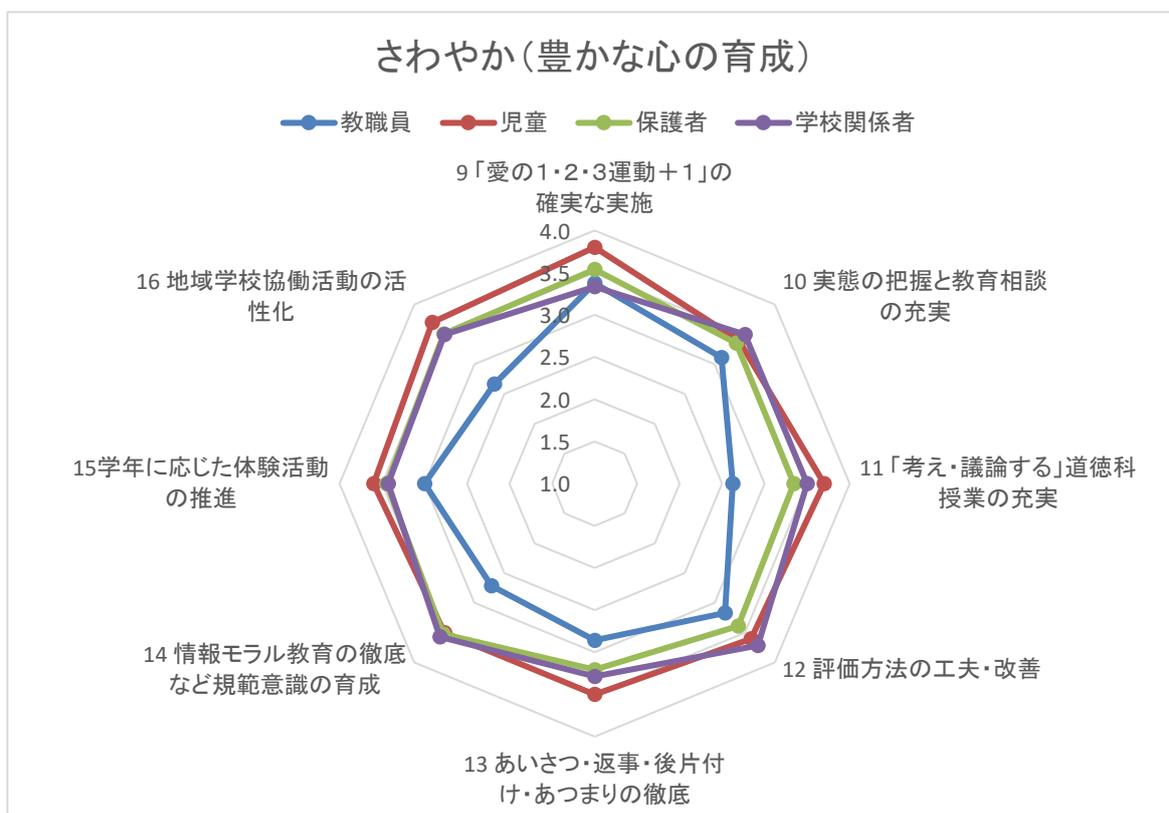


全体的に教職員の評価が低い傾向にある。これは、自分の実践と児童の姿の両方から考察した結果、謙虚に示した数値だと考えられる。学校関係者においては、5：自己決定の場の設定、6：自己存在感（自己有用感）の供与、7：共感的人間関係の育成に関して、授業参観、佐伊津小教育会議などでの児童の姿から評価していただいた。

3：授業のユニバーサルデザイン化、4：児童の実態把握と一人一人に応じた合理的配慮については、特別支援教育推進の観点から、児童の得意や良さを活か

したり、だれでも学びやすい授業の工夫をするように努めたり、UDを意識した授業を心がける教師が増えてきた。それを評価していただいたと考える。児童は実感していると考えられるので、地域や保護者に発信し、さらに授業力向上に努めていく。

(2) 「さわやか」に関すること



教職員の評価が低い中、学校関係者には高く評価していただいた。いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応の観点において、9：「愛の1・2・3運動+1」の確実な実施、家庭訪問や教育相談等、職員間の連携を図り組織で対応した。今後、地域、行政ともさらに連携を図りながら取り組んでいきたい。

11：「考え・議論する」道徳科の授業の充実において、児童の実態から身に付けさせたい道徳性を意識しながら取り組んできた。これから、教職員同士の学び合いの場を設定し、さらに高めていく必要がある。

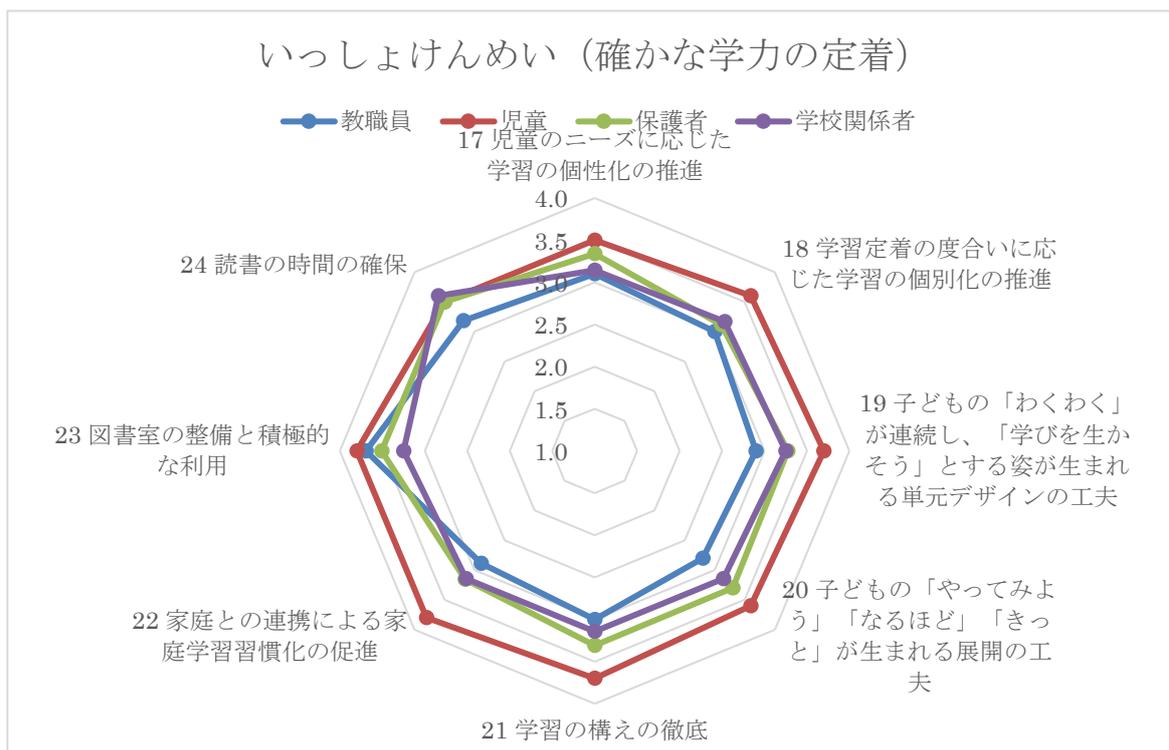
13：あいさつ・返事・後片付け・集合時の態度を身につけさせる指導を行っているかでは、特に「あいさつ」の指導を繰り返し行って来た。児童自身もこのことを課題ととらえ、佐伊津小教育会議で取組について提案・熟議し、課題解決に向けて取り組んでいるところである。集合時の態度については、なかなか全校で集まることができなかったが、学級で集団行動の意識を高めてもらい、効果的に指導を行った。

14：情報モラル教育の徹底など規範意識の育成においては、講師を招いて家庭における情報モラル教育やルールづくりについて「親の学び」プログラムを実施し、学びの場を共有した。「佐伊津っ子のくらし」（校則）を児童代表と学校運

営協議会委員、保護者代表（P T A執行委員会）と熟議を重ねさせ、主体的に規則について考え、規範意識を高めている。

16：地域学校協働活動の活性化に向けて、コロナ禍においてもできる範囲で行ってきている。来年度に向けて内容を精選し、各学年の実態に応じて佐伊津地域の自然や文化、地域人材とふれあい、体験したりできる学びの場を工夫していきたい。

(3) 「いっしょけんめい」に関すること

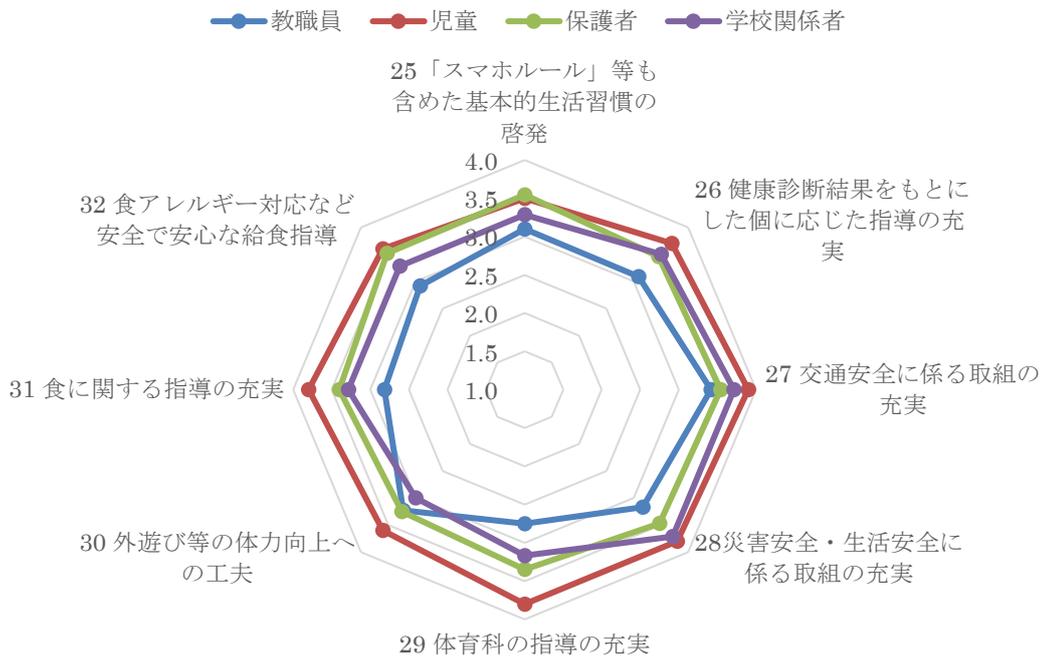


学校関係者には、授業参観等での気づきをもとに評価をしていただいている。18：学習定着の度合いに応じた学習の個別化の推進においては、児童の個々の実態を把握し教材や指導方法を工夫し、学習意欲を引き出すように努めてきた。児童の「わくわく」が連続し、「学びを生かそう」とする授業が展開されるよう、導入や課題提示の工夫、一斉の指示では理解ができていない児童についての支援・指導を行ってきた。また、授業で学んだことが家庭学習に発展していくよう、授業の終末の工夫や家庭との連携を積み重ねながら、家庭学習の習慣化に向けて取り組んでいる。

23：図書室の整備と積極的な利用については、図書担当によって利用しやすいように工夫され、児童の読書意欲の向上につながっている。やや老朽化しているところもあることから、学校関係者には低い評価となったと考える。

(4) 「つよさ」に関すること

つよさ（体力の向上）



30以外は、どれも高い評価をいただいている。29：体育科の指導の充実においては、新体力テストの結果を分析し、各学年毎に高めたい運動能力をあげ、教科体育に活かすようにしている。これからも、いろんな事例を共有しながら体力の向上に努めていく。30：外遊び等の体力向上の工夫についても、熱中症予防等に留意させ日常的に体を動かす機会をつくっていききたい。

31：食に関する指導の充実、32：食アレルギー対応など安全で安心な給食指導については、給食センターや栄養教諭と連絡を密に取り興味関心を高めていき、よりよい食習慣が身につくようにしたい。

3 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

地域、保護者とともにとても協力的で、子ども達を全面的に支えてくださっている。まさに「全ての児童を多方面から見つめ、みんな(学校と家庭・地域)で育てる」基盤が地域にある。来年度も、「人権尊重の精神に立った学校づくり」を学校経営の基盤とし、いじめ・不登校の未然防止と早期対応、「考え・議論する」道徳科の授業の充実、個別最適な学びと協働的な学びの保障、授業改善、体力の向上を重点におき、地域・家庭とともに児童の健全育成に向けて取り組んでいきたい。